5-5 音楽活動の指導：歌やリズムに親しむための活動

子どもは、音楽に合わせて身体を動かすことが大好きです。「フレー！フレー！○○ちゃん！」の応援や、「うんとこしょ、どっこいしょ」のかけ声など、自然にリズムをつけて、身体を動かしながら言葉を発しています。リズムや歌を伴った遊びに面白さを感じたり、楽器で音を出すことを楽しんだりして、音楽的活動や表現が子どもたちの生活に根づいているとき、子どもたちのイメージは豊かになり、感性が発達していきます。

うた・リズム遊び

子どもは、音楽にかかわる活動を好み、友達と遊びながら歌を口ずさんだり、音楽に合わせて体を動かしたり、友達と一緒に踊ったりします。音楽活動を通して、リズムの面白さや歌を歌う楽しさを感じ取ることは、心を豊かに育む上でとても大切です。

日本には、昔から子どもから子どもへと伝えられてきている遊び歌として、「わらべうた」があります。数人の子どもたちで唱え言葉のようにして歌を口ずさみながら遊びます。幼稚園では、子どもたちに親しませたいわらべうたや様々な歌（童謡、世界の歌など）を、豊富に教材として取り入れています。

簡単な歌に、手や身体の動きをつけていく「リズム遊び」は、歌いながら身体でリズムを表現する楽しさから、子どもたちが喜んで取り組む活動です。子どもの注目を集めたり、気持ちを落ち着かせたりしたいときなどに、教師は簡単なリズム遊びを取り入れて利用することもあります。歌やリズム遊びは、一人でも楽しめますが、友達と一緒に行うことでさらに楽しさがひろがります。友達と心を通わし合い、喜びをともに感じることのできる活動です。

教育的意義

- **歌を歌うことを通して、心が安定し豊かになる。**
- **いろいろな歌を歌う楽しさを味わいながら、多様な文化に親しむ。**
- **季節や行事に応じた歌を歌うことで、季節感や行事への関心や興味が養われる。**
- **歌詞を覚えることで、文字に親しみ語彙（い）が豊富になるとともに、歌詞からのイメージをふくらませ、想像性を育む。**
- **友達と一緒に歌ったりリズム遊びをしたりすることで、友達と一体感を味わう。**
- **音楽に合わせてのびのびと体を動かすことで、リズム感が育つ。**
- **感じたことや考えたことを音や動きに表現することで、表現力が豊かになる。**
- **手遊びや身体を動かす振りを、歌やリズムに合わせて自分たちで考えることで、動きを創作する喜びを味わう。**

うた・リズム遊びを楽しむ

新しい歌の歌詞を覚えられるように、紙に書いて提示しています。

歌のイメージに沿った絵を描くことで、文字の読めない子も興味をもてるように配慮しています。

いつでもこの紙を手がかりにして歌えるように、子どもたちがよく見える場所に掲示してあります。

クラス全員が集まり、手遊びをしています。

歌詞に合わせて手や身体を動かすことで、楽しさがひろがっています。

「ゴリラはエッホッホ！」と歌いながら、ゴリラが胸を叩く真似をするリズム遊びを楽しんでいます。

以前教師と一緒にやって楽しかったので、やってみようという子どもが前に出て来ています。

音楽に合わせてダンスをしています。

２人組で握手をし、合図に合わせて後ろを向き、今度は違う相手と一緒に踊るという楽しいダンスです。

いろいろな相手と手をつないだり、顔を見合わせたりすることができて、子どもたちは大喜びです。

音楽に合わせてポンポンを振って踊っています。

教師も一緒に楽しく踊ります。
飾りものを持って踊ることで、動きの楽しさがさらにひろがります。

ポンポンは、いつでも好きな時に使って遊べるようにしてあり、自分たちで音楽をかけていつでも踊りを楽しむことができます。

帰る前に全員で集まって歌を歌っています。教師はカセットデッキで曲を流しながら、歌詞を言って歌を教えていきます。

時には、歌を覚えた子どもが前に出て、教師の代わりに歌をリードします。

歌のリーダーになることで自信をもち、さらに生き生きと歌うようになります。

留 意 点

・ 各地域、各国に昔から伝わっている歌を題材にすることから始めます。それぞれの地域の文化を大切にしましょう。
・ 教師が、表情豊かに楽しく歌うことにより、子どもたちは歌の楽しさを感じ取ります。教師は、正しい発声や音程、リズムに気をつけながら、楽しく歌うようにしますが、子どもにはあまり正確さを強調しないようにしましょう。歌う楽しさを感じ、取り組んでみようとする気持ちを持たせることが大事です。
・ 歌の伴奏は、あっても無くてもかまいませんが、身近にある物を生かすことができます。手拍子や足拍子、体でリズムを取るなどいろいろ工夫すると楽しくなります。
・ 活発に活動した後に休息を兼ねながら歌を歌うなど、幼稚園生活の一日のリズムを考えて、歌を歌う活動を組み込むのも効果的です。
・ 子どもたちが遊びのなかで踊ったり歌ったりしている姿は、のびやかな表現を楽しんでいるとてものぞましい姿です。教師も一緒に踊ったり歌ったりして、ともに楽しむようにしていきましょう。

活 動 の 応 用 ま た は ヒ ン ト

・ 絵を描きながら歌う「絵描き歌」、動きを伴いながら歌う「まりつき歌」「縄跳び歌」など、いろいろな遊びや動きを組み合わせて歌を楽しむことができます。
・ 子どもたちに教えてあげた歌を保護者にも伝えてあげましょう。子どもと保護者が一緒に歌いながら過ごす時間は、子どもに幸せな気持ちをもたらし、心の安定につながります。
・ 保護者に呼びかけて合唱団になってもらい、唱和する美しい歌声を聞かせてあげましょう。合唱が子どもたちの心をひきつけ、子どもたちによい経験を与えることができます。
・ 新しい歌を子どもたちに教える時には、歌詞や絵を紙に書いて掲示するという方法の他に、ペープサートや人形、パネルシアターなどを使い、歌詞のイメージがわくようにしていく方法もあります。
・ 子どもたちの好きな旋律に、自分たちで考えた言葉を当てはめて、替え歌を創りだして歌いあうのも楽しいでしょう。
・ 各国、各地域に伝わっているリズム遊びやダンスがありますので、積極的に取り入れていくのもいいでしょう。

楽 器 遊 び

子どもにとって歌を歌ったり、楽器を奏(かな)でたりすることは、生活の楽しみであり、心が豊かになり、情緒が安定する経験となります。音楽を聴いたり、教師の楽器演奏を見たりすることで刺激を受け、楽器に対する興味や関心をもちます。自分で楽器に触り、音を出して遊びながら、音の違いを感じ取り、表現する楽しさを味わいます。

幼稚園で使われる楽器には、年齢の小さい子どもでも楽しめる打楽器（鈴・タンバリン・カスタネット・トライアングル・太鼓・シンバルなど）と、メロディーを奏でる旋律楽器（木琴・鉄琴・ハーモニカ・鍵盤ハーモニカ・オルガン・ピアノなど）があります。音を出すだけでなく、リズムを作って曲に合わせたりして楽しさが広がっていきます。また一人で楽器遊びを楽しむだけではなく、友達と一緒に音やリズムを合わせたり、打楽器や旋律楽器を組み合わせて大勢で合奏したりすることもできます。使う楽器を選ぶことで、異なる年齢の子どもたちが一緒に活動することができ、様々な行事で楽器を演奏したり、保護者を招いて発表会を開いたりするなど、楽器遊びが発展していきます。

教 育 的 意 義

- **音楽を聴く体験をとおして曲の流れを感じとり、イメージをふくらませ、豊かな感性や想像力が育つ。**
- **感じたものや感じたこと、そのときの気持ちなどをリズムで表現し、表現力が豊になる。**
- **自分で楽器に触り、音を出して遊びながら、音の違いを感じ取ったり、表現したりすることを通して、音に対する感覚(音感)を育てる。**
- **素材の持つ性質の違いによって音が違うことに気づき、いろいろな物を使って音を出すことを試みながら、創意工夫する態度や美的感覚が培われる。**
- **組み入れる楽器の数などを考えることを通して、数量に関心をもつ。**
- **楽器の弾きかた、音の出し方などを学ぶなかで、自分の身体を操作する力が育つ。**
- **他の楽器の音を聴きあいながら、心を合わせて合奏することで、参加する喜びや充実感を感じ、友達との信頼関係が深まる。**
- **一つの合奏曲を完成させる過程で協調性・社会性・積極性が育まれ、達成感や成就感を味わう。**

楽 器 で 遊 ぶ

子どもがいつでも使えるように、決まった場所に、
鈴やタンバリンなどの楽器が置いてあります。

マラカスのように振ると音の出る手作り
楽器を喜んで鳴らしています。

かごに入っている鈴を取り出し、友達と一緒に鈴の音色を楽しんだり、楽器の仕組みに興味をもち始めたりしています。

友達と一緒に音を合わせる楽しさを知り、楽器を手作りすることへつながっていきます。

音階が分かるように木琴に色のシールを貼ってもらい、メロディーを奏でる練習をしています。

譜面を見てひくのではなく、教師が音階を言いながら、たたく場所を教えることで、次第に覚えていきます。

鈴、トライアングル、木琴、太鼓、シンバルなど、それぞれが曲に合わせて練習してきたものを一つに合わせることで合奏になり、皆で協力して音楽を作り上げる楽しさを経験します。

日本の民族楽器である和太鼓です。

街のお祭りや園での行事にも使われます。

さわることで皮の張りを感じ、手でたたいて試しています。

自分の身体をしっかり動かしてたたくことで、張りのある素敵な音色がでることや、いろいろなたたき方があることを教師から教わり、演奏する楽しさを知っていきます。

留 意 点

・ 楽器や音楽への興味関心を育てるため、音楽を聞く機会を作り、子どもがその感動を表現できるよう、自由に使える楽器を用意しておきましょう。
・ 教師が楽しんで楽器遊びをすることで、子どもは一緒に楽しさを共有し始めます。教えるのではなく、子どもが素朴でも自分で表現することを楽しめるように注意しましょう。
・ 子どもの心身の発達に楽器が合っているか、子どもがよく知っている曲や子どもが楽器遊びをしたいと感じる曲であるか吟味します。
・ 自由にリズムを打ったり、音を出したりすることで、めちゃくちゃに叩く時期もありますが、いろいろな音を聞き比べ、どのような音が心地よいか、音を聞きコントロールできるように適切な援助をしていきます。
・ 旋律楽器には音階の理解が必要ですので、聞いた曲を探るように弾く時期もあります。できないと途中で嫌になりますが、できたときの感動を共有し、上手下手ではなく、表現する楽しさを体験できるように援助します。
・ 壊れやすい楽器やばちなどの扱い方は、丁寧に説明し、危険のないように注意します。

活 動 の 応 用 ま た は ヒ ン ト

・ 手拍子、足拍子、ひざうちなど、体を使ってリズムを取り、音を楽しむことができます。身の回りにある物を叩けば、様々な音がでます。音探しからスタートするとよいでしょう。
・ 空き缶、空き箱などに小石や木の実を入れたり、木や木片を利用したりして、リズム楽器を作って楽しむこともできます。
・ 竹や木を空洞にして穴を開けて、笛のように吹いて遊ぶ楽器も作れます。
・ 葉っぱや草笛なども音が出ることを知らせ、皆で試してみるのもよいでしょう。
・ 楽器の活動を、運動会や発表会などの行事のときに披露するのもよいでしょう。
・ 様々な民族楽器に触れたり活用したりするようにして、自国の文化への理解につなげていくこともできます。
・ 園外から、楽器を演奏する人を招いて聞かせてもらったり、その人たちと一緒に演奏したりすることもよい経験となります。